# 「研究Ⅲ」 Vol.1 ガイダンス

~「答えのない問い」を考える~

2021. 4. 13

)

3年( )組( )番 (

☆ 今日の目標

- 1.「研究Ⅲ」のねらいを理解する
- 2. 「コロナウィルスから見えた社会の課題」について考える

### 1.「研究皿」とは・・・

「研究Ⅲ」ではこれまで行ってきた研究Ⅰ、Ⅱの集大成として「厚みのある教養」を養い、「答えのない問い」に対して他者と議論しながら多面的な視点を養うと共に、未来社会をリードする想像力を養うことを目標としています。

そのために、様々なテーマを題材として「考える・議論する・表現する(書く)」の活動を行っていきます。

# 「研究皿」で何をするのか



2. 初回(第0クール)テーマ

# 「コロナウィルスから見えた現代社会の課題」

今回のコロナ禍を通して医療、教育、経済、法律など現代社会の様々な問題点が浮き彫りになっています。今回の現象で感じたことこそ、「これからの社会はどうあるべきか」「今後、改善していかなければいけない事は何か」という答えのない問いであり、今こそ真剣に向き合わねばなりません。

#### <今日の活動>

- ①論文A 文明と新型コロナ 哲学者・斎藤幸平
- ②論文B 生物学的文明論 大学教授·本川達雄

(教養テキスト第2集「私たちはなぜ科学するのか」p22~)を読む。

#### く著者参考>

論文 A: 斉藤幸平(大阪市立大学准教授。経済思想史学者)

Capital, Nature, and the Unfinished Critique of Political Economy で権威あるドイッチャー記念賞を史上最年少で受賞。ベルリン・フンボルト大学哲学科博士課程修了。

論文 B: 本川達雄(東京大学理学部生物学科(動物学)卒業。東京工業大学名誉教授) 理学博士。専攻、動物生理学。著書『ゾウの時間 ネズミの時間』(中公新書、1992)『生物 学的文明論』(新潮新書、2011)ほか。

感想		
本川先生への質問事項		

# ☆振り返り

内容について		もう少し			できた	
①「研究Ⅲ」のねらいが理解できた	1	2	3	4	5	
②「社会の課題」について深く考えるようになった		2	3	4	5	
③「社会の課題」について他の問題とのつながりも考えるようになった		2	3	4	5	
④まだ答えのない問いに取り組みたいという気持ちが 強くなった		2	3	4	5	

## ☆<今後の活動の流れ>

4/20(火)専門家の意見を聞く①(生物学的側面より)90分 演題「生物学者から見るポストコロナ社会はどうあるべきか」 講師:東京工業大学名誉教授 本川 達雄教授

5/11 (火) SDGs・マイクロプラスティックとは何かについて学ぶ①

25 (火) SDGs・マイクロプラスティックとは何かについて学ぶ②

6/ 1 (火) 専門家の意見を聞く②(社会学的側面より)

講師:NHK番組制作プロデューサー 堅達京子様

6/8(火)自分で調べて、論文の構成を考える。

(論文作成までに参考にしたい資料があれば各自で準備しておく)

- 15(火)意見文作成
- 22(火)サイレントダイアログ(回し読みで意見交換)
- 29 (火)議論・意見文書き直し